

“FUTURE CENTER for 国際協力” を目指す GLM

8月2日(木)に、第一回となる、「国際協力従事者のためのホールシステム・アプローチ体験ワークショップ」を開催しました。ゲストに JICA ケニア保健プログラム・アドバイザー／ニャンザ州保健マネジメント強化プロジェクト・チーフアドバイザー保健分野の JICA 専門員として、ケニアでご活躍中の杉下智彦先生、ファシリテーターに(特活)ミラツクの西村勇也さんをお迎えして、対話形式のワークショップを行いました。

「ホールシステム・アプローチ : WSA」

「ホールシステム」の考え方は、もともと 1950 年代頃に登場した組織開発 (Organizational Development) のコンセプトから派生したもので、「システム思考」や「オープンシステム論」等がベースになっていると言われます。この考え方自体は決して目新しいものではないのですが、GLM が、国際協力にも、もっとホールシステム・アプローチ (の考え方) を取り入れたいと思ったのには、理由があります。それは、ますます複雑化する世界で、目に見える問題のみを切り取って対処し続けるやり方だけでは行き詰まり、組織も個人も進むべき方向性が見えづらくなっていると強く感じるからです。

例えば、地球の持続性について考える場合、個別の問題を取り出しすぎていてもきりがありません。地球を「ホールシステム」として見る必要がありますし、持続性について考えることは、今と未来とのつながりについて考えることにほかなりません。リオ・サミットやリオ+20 等の国際会議は、まさに、世界中の人々が一緒に知恵を絞って、地球の未来について考える「場」となっています。リオ+20 での、ウルグアイのムヒカ大統領のスピーチ、お聞きになった方も多いと思いますが、「世界中の国々が、『経済成長』の名の下で資源をむさぼり続け、70 億人が先進国並みの暮らしをしたらどうなるのだろう」と問いかけていましたね。今の地球のキャパシティと、その持続性を考えるには、地球というホールシステムを共に見て、それをどうやってマネージしていくのか、世界中の人々が一緒に考える作業が必要ではないでしょうか。

GLM では、「ホールシステム・アプローチ」を、できるだけ多様な関係者 (例えば、行政関連機関、企業、コンサルタント、大学・研究機関、NPO/NGO など) が一堂に会し、未来思考で協力的・創造的に対話することで、組織や企業の壁を超えたイノベティブな発想を生み出し、アクションにつなげていくプロセスあるいは方法論と捉えています。そして、このようなプロセスを実現するために、人々が集まる「場」や、言葉の力を借りて「対話」をすることが有効であると考えます。そんな特別な「場」における対話をとおして、多様な考え方が化学反応を起こしながら、集合知が生まれ、それらが行動に移されることで未来が創られていく。GLM は、そんな「未来思考で創造的に対話する場」を国際協力の分野にも作り、ユニークなワークショップや勉強会の開催をとおして、ホールシステム・アプローチの考え方を、途上国における新規事業創造や ODA 案件化に活かして行きたいのです。国際協力の分野でのフューチャーセンター (フューチャーセンターについては、こちら。) 作りも視野に入れて、社内外での勉強会やネットワーク作りを行っています。

そんな「未来思考で創造的に対話する場」づくりを助けてくれる便利なツールがたくさんあります (ワールドカフェ、アプリシエイティブ・インクワイアリー (AI)、オープンスペース・テクノロジー (OST)、フューチャーサーチ、その他にも、下記「The Change Handbook」サイトにたくさん紹介されています。
<http://www.change-management-toolbook.com/mod/book/view.php?id=74&chapterid=150>)

GLM では、これらのツール自体を紹介したり、体験したりすることだけでなく、「未来思考で創造的に対話する場」から実際に何が生まれたのか、にフォーカスしています。生きた事例から学び合い、実際に現場での業務に活かして行くことが重要だと考えるからです。

【ワークショップ午前の部】 午前中はまず、GLMの中村千亜紀シニア研究員より主催者の思いを話しました。その後は、杉下先生による、「Whole Systems Approach in the Field」と題したプレゼンテーション。



杉下先生より、ホールシステム・アプローチを考えるうえで核となる下記の「**Core Values**」について、実例やビデオ、エピソード等を交えながらご説明いただきました。

- **学び捨てる (unlearn) ことの大切さ**
- **支援的リーダーシップ (Servant leadership) の大切さ**
- **個々人を知りあう**
- **「みんなで決める」から「みんなで感じる」**
- **願わなければ、何も始まらない (Visioning)**
- **夢を見ることができなければ、何も実現しない (Dream management)**
- **変化のためのキャパシティ**
- **気づきのためのカタリスト、場の演出**
- **未来の創造のための対話**

杉下先生からは、たくさんの示唆に富むお話を伺いましたが、紙幅の制約から、GLM主催者の印象に残った部分をちょっとだけ紹介させていただきます。

たとえば、「**答えは与えられるものでなく、自分の中にある。だから、専門家は、ちょっと気づきを演出するだけ。**」という言葉から、「**気づきのカタリスト**」である重要性について考えさせられました。

それから、「**Doing things correctly. と、Doing correct things.は違う。**」という言葉。時間や様々な制約の中で、つい、目の前の問題を効率的に片付けるような仕事の仕方になりがちです。でも、本当に必要なこと、本質的に重要なことを見極めて取り組む姿勢が求められることに、改めて気づかされました。

先生のプレゼンテーションを聴いたあとは、ワールドカフェ形式で、「先生のプレゼンテーションの中で何が印象に残っているのか。また、どうして印象に残っているのか。」についてダイアログ（話し合い）しました。



【ワークショップ午後の部】

西村さんとのダイアログ

午後は、参加者全員が輪になって座り、午前中のセッションを振り返り、気づいたことを話合いました。「シナプスがピキピキと音を立てている。」とおっしゃった方もいて、段々と会話が深まるのを感じました。その後は、参加者からのリクエストに応じて、西村さんから対話に使われたワールドカフェや、その他の手法について説明をいただきました。

最後は、参加者一人ひとりが1日の感想や気づきをシェアして、終わりました。「本当に来てよかった」、「気づきを得られた」、「自分の職場にもホールシステム・アプローチを取り入れたい」といった声が聞かれましたが、「Unlearn」とか、「Servant Leadership」といった概念や「ホールシステム・アプローチ」そのものの考え方について、「もやもやが残る」、「まだまだ消化不良」との声も。ただ、今回のワークショップをきっかけに、参加者の方々がホールシステム・アプ

ロチについて考え、それぞれの職場や生活の中で新しい活動を起こす一歩に繋げていただければ、大変幸いです。

今後の GLM の取組み

冒頭でも触れましたが、GLM は、国際協力のフューチャーセンターとして、「未来思考で創造的に対話する場」を、国際協力の分野に作ることを目指しています。ユニークなワークショップや勉強会の開催をとおして、ホールシステム・アプローチ的な考え方を、途上国における新規事業創造や ODA 案件化に活かして行きたい、と考えています。今後も、様々な業務でホールシステム・アプローチを取り入れ、発信して行く予定です。

フューチャーセンターとは・・・

フューチャーセンターとは、もともとは北欧で生まれた概念ですが、まさに、多様な関係者（例えば、行政関連機関、企業、コンサルタント、大学・研究機関、NPO/NGO など）が一堂に会し、未来思考で協力的・創造的に対話することで、組織や企業の壁を超えたイノベティブな発想を生み出し、アクションにつなげていくために運営される「場」といえます。こんな GLM の取組みに賛同頂ける方、一緒にやってみたい！という方は、ぜひぜひ、下記までご連絡ください：wsa@glm.co.jp

また、フューチャーセンターについて、もっと詳しく知りたい方は、下記のリンクをご参照ください。

- [フューチャーセンターについての記事](http://president.jp/articles/-/5903?page=2) <http://president.jp/articles/-/5903?page=2>
- [東大柏キャンパスのフューチャーセンター](http://www.fc.u-tokyo.ac.jp/) <http://www.fc.u-tokyo.ac.jp/>
- [富士ゼロックスのフューチャーセンター](http://www.fujixerox.co.jp/solution/kdi/fc/case_japan.html) http://www.fujixerox.co.jp/solution/kdi/fc/case_japan.html